



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第
10号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第10号). 泌尿器科紀要 2002, 48(10): 646-646

ISSUE DATE:

2002-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114830>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

京都の企業，島津製作所からノーベル賞受賞者がでた。田中耕一氏本人でさえびっくりしたというのだから，周囲がびっくりしたのは当然である。

彼の開発した質量分析装置は蛋白の解析には大きな威力を発揮する。6年くらい前，私はこの質量分析装置でDNAの質量をはかりPCR産物の反復配列の回数を決定するという研究を基礎教室との共同で進めたことがあったが，核酸でさえ実に精度高く測定できたことに驚いたことを覚えている。その当時も，この原理が日本人によって開発されたことは全く知らなかった。

島津製作所の株は上がり，スーパー平社員の大偉業に国中がわいた。9月のSIUで参加者が試食したスウェーデン市庁舎でのノーベルディナーに田中氏は招待されるのだろうか。しかし，彼が平社員であることが私のところに2つの心配の種を作っている。ひとつは，日本社会における「知的貢献」に対する評価の低さである。医師も知識と技術で生業をたてているのであるが，セカンドオピニオンに代表されるように知識が評価されることはほとんどない。このようなことで科学技術立国日本の創生はできるのだろうか。欧米では田中氏のノーベル賞受賞は，そういった日本に対するある意味での皮肉とみるむきもある。もうひとつの心配は，田中氏のこれからの人生である。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第48巻 第10号 2002年10月25日 印刷 2002年10月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
